

広大マスタース平成24年度平和科目

(前期) 平和と人間Aー環境と生物の未来へー

<授業概要>

講師陣は広島大学名誉教授で構成。大学教育の現場から離れているが、なお学界等の第一線で活動する。その立場から、「平和」をより大局的にとらえ、オムニバスで講義する。

1) 私たちの原点は、人類最初の原爆投下によって都市壊滅した広島にある。だが平和を求める心は人類に共通し、普遍的である。

2) 産業革命によって、生産と消費、労働と生活、伝統と文化のシステムが大きく変化し、私たちは国家＝国民の枠の中に組み込まれる。今から200年以上前、「神なき時代の最初の哲学者」とよばれるカントは、平和は人間が自ら創設されるものと説いた。

広島投下の原子爆弾とは何であったか。そこに生きた者の視点から被爆の実相と都市の破壊を考え、原子爆弾の構造、その威力等を知り、その後の核兵器の歴史と現実を考える。

現代の世界平和は、戦争回避だけではない。人口増加、物質の偏在、食糧の不足、環境の劣化の諸困難にいかにか立ち向かうか。環境破壊の克服、新エネルギーの模索、バイオテクノロジー、感染と危機の管理、真の意味での生物多様性の社会を考える。

3) 「平和」を国際的レベルにおける共同意志にどう高めてゆくか、それを考えてゆきたい。

<講義目次>

- 第1講 ガイダンス (4月9日) 授業の狙い、講師紹介 (金田晋・元総合科学部)
- 第2講 平和と哲学ーカントと平和の哲学 (4月16日) (金田晋・元総合科学部)
- 第3講 広島投下の原子爆弾の構造・威力・被害と放射線障害 (4月23日) (松田正典・元総合科学部)
- 第4講 広島で被爆して平和を考える (5月7日) (植木研介・元文学研究科)
- 第5講 近代産業と平和ー英国資本主義とクェイカー教徒ー (5月14日) (友田卓爾・元総合科学部)
- 第6講 地球環境の変貌 (5月21日) (安藤忠男・元生物圏科学研究科)
- 第7講 30年後の地球環境 (5月28日) (安藤忠男・元生物圏科学研究科)
- 第8講 生物多様性 (6月4日) 山本義雄・元生物圏科学研究科)
- 第9講 環境と再生可能エネルギー (6月11日) (鈴木寛一・元生物圏科学研究科)
- 第10講 水産資源の国際問題 (6月18日) (中川平介・元生物圏科学研究科)
- 第11講 バイオテクノロジーの歴史と最新技術 (6月25日) (平田敏文・元理学研究科)
- 第12講 次世代のバイオテクノロジー (7月2日) (平田敏文・元理学研究科)
- 第13講 感染症と危機管理 (7月9日) (松田治男・元生物圏科学研究科)
- 第14講 平和と国際経済学 (7月17日) (佐野進策・元経済学部)
- 第15講 平和の哲学ー現代の諸問題と哲学の視点 (7月23日) (金田晋・元総合科学部)

(後期) 平和と人間Bー人間と文化の未来へー

<授業概要>

講師陣は広島大学名誉教授で構成。大学教育の現場から離れているが、なお学界等の第一線で活動する。その立場から、「平和」をより大局的にとらえ、オムニバスで講義する。

1) 私たちの原点は、核兵器の最初の被爆地広島にある。だが平和を求める心は人類に共通し、普遍的である。

2) 近代科学と産業はめまぐるしく発達する一方で、使用者のモラル（倫理意識）が問われている。広島への投下時の原子爆弾の仕組みと威力、そこからひき起こされた地獄絵図、その後もつづく核兵器開発の拡散の現実を学ぶ。同時に平和を阻害するさまざまな要因、環境破壊、人口増加、物質の偏在、飢餓等を克服するための外交と国際協力の歴史を学ぶ。戦争は国家の論理が優先する。その下で、人びとは自らの生き方を問い、相手国に住んでその苦難を経験し、なお平和の生活を望んだ。また芸術やスポーツを介して国境を超えて人びとの連帯をもとめてきた。

3) 平和は人間が自ら創設してゆかなければならない（イマヌエル・カント）。「平和」を国際的レベルにおける共同意志にどう高めてゆくか、それを考えてゆきたい。

<講義目次>

- 第1講 ガイダンス、授業の狙い、講師紹介（10月1日）（金田晋・元総合科学部）
- 第2講 平和と哲学ーカントと平和の哲学（10月15日）（金田晋・元総合科学部）
- 第3講 広島投下の原子爆弾の構造・威力・被害と放射線障害（10月22日）（松田正典・元総合科学部）
- 第4講 広島で被爆して平和を考える（10月29日）（植木研介・元文学研究科）
- 第5講 近代産業と平和ー英国資本主義とクェイカー教徒ー（11月12日）（友田卓爾・元総合科学部）
- 第6講 環境から見た人類の生長とその限界（11月19日）（安藤忠男・元生物圏科学研究科）
- 第7講 バイオテクノロジーと食の安全（11月26日）（池上晋・元生物圏科学研究科）
- 第8講 バイオテクノロジーと生物多様性（12月3日）（池上晋・元生物圏科学研究科）
- 第9講 戦争と倫理（12月10日）（水田英実・元文学研究科）
- 第10講 戦争と記憶ー比治山に眠るフランス兵士の墓（12月17日）（原野昇・元文学研究科）
- 第11講 イタリア半島の言語状況から平和を考える（12月25日）（古浦敏生・元文学研究科）
- 第12講 平和とスポーツー祭典とオリンピック（25年1月8日）（渡部和彦・元教育学研究科）
- 第13講 平和と美術（25年1月10日）（難波平人・元教育学研究科）
- 第14講 平和と国際経済学（1月21日）（佐野進策・元経済学部）
- 第15講 平和の哲学ー現代の諸問題と哲学の視点（1月28日）（金田晋・元総合科学部）